

新産地報告

上野 勝典・上野由貴枝 (松本市寿北2-2-38)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno: New localities of some plants in Nagano Prefecture

長野県産の植物、特にシダ植物以外の維管束植物について観察してきた中で、分布上興味深い産地が判明した植物について報告する。

キツネノカミソリ (ヒガンバナ科) *Lycoris sanguinea* Maxim.

塩尻市宗賀桜沢 900m 2003年8月17日

キツネノカミソリは比較的に見慣れた、どこにでもある植物と思われるが、塩尻市、松本市では記録が無い(塩尻市1991、松本市1996)。塩尻市と楢川村の境を走る牛首峠へ向かう林道の急斜面に、数10株の比較的大きな群落が見られた。

ヤシャビシヤク (スグリ科) *Ribes ambiguum* Maxim.

上村遠山川 720m 2003年6月15日

上村ではヨウラクランの発見箇所近くの苔むした古木で一株着生しているのを見つけた。すぐ横でスギラン (県の絶滅危惧ⅠB類) も見られた。白馬村母池でも針葉樹の幹に着生しているのを見かけた。長野県(2002)には上村での記載はなかったが、白馬村(2000)には記録がある。両方で標高がかなり違い、標高にはあまり関係なく生育しているようである。長野県では絶滅危惧Ⅱ類に分類され、上村の近くでは長谷村と喬木村、飯田市で記録がある(長野県2002)。

アオキラン (ラン科) *Epipogium japonicum* Makino (写真1)

松本市三才山舟ヶ沢 940m 2003年9月28日

女鳥羽川上流の支流舟ヶ沢で、腐生ランを見つけた。2本の花茎が伸びており、少し枯れかけていたが、アオキランと確認できた。同属のトラキチランとは子房がねじれ、距が太くて長い点が異なり、全体が白くて背面が丸みをおびるタシロランとも明確に区別できる(写真参照)。長野県では絶滅危惧ⅠAに分類される貴重な種で、分布は県北部、南部に限定されている(長野県2002)ことから、県中部では初めて確認されたものと思われる。

トラキチランは松本市で記録があるが、タシロランは暖地性植物であり、長野県内では発見されていない。以前タシロランを神奈川三浦半島で数度見かけたことがあり、近年、温暖化に伴い分布が北上しているようである。この自生地付近には、砂防ダムの構築計画があり、自生地が失われないか心配である。

ヨウラクラン (ラン科) *Oberonica japonica* (Maxim.) Makino (写真2)

上村遠山川 700-730m 2003年6月15日

溪流そばの苔むした古木に比較的大きな株が着生しているのを見つけた。この株は葉長が花柄を含めて15cm程度で、花柄も30本近く出ており、生育状況は良好だった。長野県では絶滅危惧ⅠB類に分類され、大桑村と山口村の木曾谷側での記録がある(長野県2002)が、伊那谷では初の報告と思われる。

謝辞

観察に一部同行いただいた、加藤範夫氏、田尻正宏氏、田尻祝氏、永田芳男氏、総谷文清氏、小山泰弘氏、藤井猛氏に感謝の意を表します。また、本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただいた小山泰弘氏ならびに大塚孝一氏には、重ねて心より感謝いたします。

引用文献

- 塩尻市誌編纂委員会 (1991) 塩尻市誌 第一巻 自然。
- 清水建美監修 (1997) 長野県植物誌。信濃毎日新聞社。
- 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック 維管束植物編。
- 白馬村 (2000) 白馬村の貴重な動植物-白馬村版レッドデータブック 96pp。
- 松本市 (1996) 松本市史 第一巻 自然編。



写真1 アオキラン 2003年8月28日 松
本市舟ガ沢



写真2 ヨウラクラン 2003年6月15日 上村遠山川